

Topic

COLUMN: 先生紹介 ▶ マナロ 恭子 (今福・関目教室)



産休が明けて戻ってきました。

昨年の夏頃から3人目の出産のため、産休、そして今回は育休までいただき、この度9月より復帰いたしました。生徒・並びに保護者の方々、そして先生達には大変ご迷惑をおかけいたしました。無事出産し、またカイチに戻って来ることができて嬉しく思っています。

9月末から運動会が3つあったり、PTAの行事があったりと、休みの日も色々忙しくなり、家の中はメチャメチャですが、なんとかやっています。復帰後は今福と関目でパスカルキッズとトーキングキッズを担当しています。こちらの地域で教えるのは約5年ぶりでしょうか。昔は(まだ私が独身で若い頃)まったくやる気のない子や、全然言うことを聞いてくれない子に手こずり、夢にまで現れて私を悩ませることもしば

しばありました(笑)。しかし、母になり、カイチで動き始めて15年以上経った今は、どんな子供達もかわいくて仕方ありません。

特に、毎週やる気のない感じで来る生徒。やりたくないことを今日はしなくていい代わりに次回ががんばってすると約束させたり、時には、「こっちは本気でやっているのに、その態度はあかんと思う!」と怒ってみたり、色々試してみてもその子にはどんな指導が向いているのか考えていくのですが、その時の生徒の反応が思った通りの反応でかわいいなあとつくづく思います。子供は自分で「やる」と決めたら、結構できるもので、また、できると楽しいし、次もやりたいと思うようになります。その「やる気」を出させるのが私達の役目なのですが、我が子でも難しい!今は、我が子に使ったやり方を、パスカルの生徒に試してみたり、パスカルの生徒に上手いといったやり方を我が子に使ってみたりしています。

今では私も同じ年頃の子供を持つ母親なのですが、パスカルの生徒達の優秀さには本当に驚かされます。

特に小さい子達は、「私は(僕は)できる!」というどこからくるのか分からないその自信が、自分の今持っている能力より少し上の難しい問題を解く力となっているように思います。その自信は、家庭内で「自分がどんな失敗をしたとしても必ず受け止めてくれるお母さん、お父さんがいるという安心感から生まれるものだ」と、何かの本で読んだことがあります。

毎回送り迎えにいらっしゃる保護者の方々に、私の方が「ご家庭でどのような指導をされているのですか」と聞きたいほど、パスカルの生徒達はしっかりしていますし、優秀です。私もそんな保護者の方を見習って、とりあえず今度の休みは家を片付けようと思います。



▲生後1ヶ月の我が子



井上のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE

井上 陽平 (関目教室)

頑張った自分にご褒美を!ヨーロッパ旅行の思い出

皆さんこんにちは。秋も深まり、肌寒い日々が続いています。塾では、定期テストシーズンのスタートです。普段からコツコツ努力しているカイチ生にとっては、その成果の見せどころ。我々スタッフ一同も、より一層気合が入ります。

しかし、根を詰めて頑張り過ぎると、疲れが出て、本来のパフォーマンスが発揮できなくなってしまいます。目標に向けて一生懸命取り組み、一段落ついたところで、自分にご褒美をあげることが大切です。私自身、最近そのことについて深く考える機会がありました。

私にとってのご褒美は、休日に映画を見る、友人とおいしいラーメンを食べる、大好きなロックバンドのコンサートに行くなどありますが、一番気分をリフレッシュさせるのが、なんといっても「旅行」です。今年も、友人と企画して、東京や加賀に足を運んだり、普段の生活では味わえない特別な時間を過ごしました。

国内の旅行も楽しいのですが、私の中で一番思い出に残っている旅が、数年前、大学の卒業旅行として友人たちと出かけた、ヨーロッパ旅行です。今回は、私の世界の見え方が変わった、この旅について書いていきます。

関空から国際線を使い、約20時間かけて着いたのが、スペインの都市・バルセロナ。サッカーのクラブチー

ム・FCバルセロナで有名ですね。都市部の街並みは、何でもない住宅の一つ一つにまで細かい彫刻が刻まれ、この都市の歴史と芸術的な美しさを感じられました。また、バルセロナといえば、世界的な建築家・ガウディの作品が数多く残されていることで有名です。中でもサグラダファミリア



①サグラダファミリア

ラダファミリア(写真①)は壮観でした。人生で一度は直に見たい建造物であったこともあり、実際に目の当たりにした感動は計り知れませんでした。

次に訪れたのが、イタリアの首都・ローマ。古代の大国、ローマ帝国の中心でもあるこの都市には、当時から敷かれていた石畳がそのまま残っており、当時のヨーロッパの雰囲気を感じることがができます。さらに、同じくローマ帝国時代の建

②コロッセオ

造物であるコロッセオ(写真②)。かつての闘技場で、当時の帝国がどれだけの権力を握っていたかを示すような巨大な建物でした。また、ローマ市内にある世界最小の国・バチカン市国にも行ってきました。その中にあるサン・ピエトロ大聖堂では、キリスト教にまつわる文化や歴史を垣間見ることができました。パルセロナにも数多くありましたが、キリスト教の教会の途方もない美しさは、神社やお寺を見慣れた私にとって、これ以上ない刺激を与えてくれました。

そして、最後に訪れたのが、ヨーロッパとアジアの境界線・トルコのイスタンブールです。当時イスラム国の活動が活発になっていたため、とても警戒して行きましたが、着いてみれば、人の温かみに溢れ、食べ物もおいしい、非常によい街でした。また、キリスト教のスペイン・イタリアと違い、イスラム教の国であるトルコでは、日本での神社・お寺に当たるモスクがあり、またしても興味深い文化の違いを感じました。そして、私が思うイスタンブール最大の魅力は、猫がいたところにいる事です(写真③)。イスラムの教祖・ムハンマドが大の猫好きだったそうで、猫は特別な存在とされているとのことでした。

さて、前述のように、この旅行からもう数年が経ち、細かな記憶も薄れて



③イスタンブールの猫

いますが、「言葉が伝わらなくても、伝える努力をすれば意思を伝えることができること」「特に宗教が違えば、その国の常識が全く異なること」「何よりとても楽しかったこと」を今でもはっきり覚えていて、この旅は少しスケールが大きいかもしれませんが、皆さんもこれから勉強や仕事を頑張るだけでなく、自分へのご褒美も与えてあげてください。そのご褒美で、心身ともにリフレッシュし、勉強や仕事のパフォーマンスもより向上していくはずですよ。

カイチからのお知らせ

- 11月上旬より期末模擬テストを各教室で実施します。
 - 11月10日(日)は中学3年生対象の五ツ木模試が実施されます。
 - 11月は受験生にとって大切なテストが続きます。体調管理をしっかり行いながらテスト勉強をがんばってください。
 - 12月14日(土)は珠算競技大会を実施します。代表に選ばれたみんなは教室の代表としてがんばってください。
- 【受験生を持つ保護者の皆様へ】11月はテストが続く、精神的に不安定になる生徒達も出てくる時期です。心配やご相談がある時は、遠慮なく各教室にご相談ください。

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター



【本 部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662
【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984
【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722
城東区今福西 1-10-17
TEL.06-6935-2220
【万緑会】
天王寺区上本町 6-9-10-3F
TEL.06-6772-5011

【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000
【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117
【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467
【エニグマ】
中央区谷町 9-4-5-3F
TEL.06-6777-1563



高木 秀章(塾長)

小さな巨人 緒方貞子さん

10月は色々な事があった1カ月でした。ラグビーのワールドカップに、天皇陛下下の「即位の礼」そして、吉野彰さんのノーベル化学賞受賞もありました。そして、元国連難民高等弁務官の緒方貞子さんが亡くなりました。

緒方貞子さん? 国連難民高等弁務官? よく知らない人も多いかもしれませんが、実は彼女は世界から「小さな巨人」として評価される、日本が誇る偉大な女性です。

今回は、私もあまり知らなかった緒方貞子さんについて「ミライの授業」(瀧本哲史著)を参考にさせていただきながら、ご紹介しようと思います。

彼女の曾祖父(ひいお爺ちゃん)があのだ養毅で貞子という名前を付けたのも彼だそうです。お父さんの仕事の兼ね合いで3歳から渡米し西海岸で5年、さらに広東や香港でも3年間を過ごし、当時の女性には珍しく国際感覚のある女性だったようです。

彼女が世界初の女性、そして日本人初の国連難民高等弁務官として代表を務めた国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) は難民の保護と救済を専門に扱う国連機関です。

彼女がUNHCRのトップだった1990年は、東西に分断されていたドイツが一つになった冷戦終結の年。平和になるかと思っていた世界に、民族主義の風が吹き荒れ、各地で紛争が起こり大量の難民が発生するようになります。

そして、緒方さんの就任直後、UNHCRは最大のピンチを迎えます。1991年にイラクで勃発した湾岸戦争と、そこで発生したクルド人難民問題です。

1991年、国連の多国籍軍がイラクを空爆することではじまった湾岸戦争は、ほどなく多国籍軍の勝利に終わりました。そしてイラク軍の敗退を見て、イラク国内の少数民族であるクルド人勢力が、武装蜂起します。それまでクルド人たちは、イラクのフセイン政権から迫害を受けていました。そして湾岸戦争の敗北を機に、政権の打倒を試みたのです。

しかし、この武装蜂起はイラク軍の反撃によって鎮圧されます。こうしてさらなる迫害を恐れた180万ものクルド人が、国外へ逃れようとイランやトルコとの国境をめざしました。

このうち140万人は無事イランに脱出できたのですが、問題はトルコとの国境へ逃れた40万人です。じつは、国内にも多数のクルド人を抱え、独立運動を展開されていたトルコは、これ以上クルド人難民を受け入れることができなかったのです。トルコはイラクとの国境を封鎖し、クルド人たちを追い返しました。こうして行き場を失ったクルド人たちは、イラク国内に戻れば迫害に遭い、トルコ国境を越えることもできない、孤立無援の状態となりました。

ここで当然、緒方さん率いるUNHCRが支援にあたるべきだと声が出るのですが、じつは国連が定める難民条約における難民の定義は、迫害を恐れて「他国に逃れた人々」となっていました。そして、トルコから追い返されたクルド人たちは、他国に逃れたわけではありません。あくまでもイラク国内にとどまっています。

難民と呼べないクルド人たちを、どう扱うか。緒方さんはUNHCRの幹部を緊急招集して、会議を開きました。人道的な見地からクルド人たちを救うべきだという意見、ここでUNHCRが動いたら難民条約が無効化されてしまうという意見。緒方さんは幹部たちの激しい議論にじっと耳を傾けました。

そして議論が出尽くしたとき、彼女はこう宣言したのです。「わたしはやることに決めました。彼らが国境を越えようと越えまいと、UNHCRは被害者とともに、そして被害者の傍らにいるべきなのです」彼女は当時の決断をこう振り返っています。

「この判断に対するUNHCR内部での議論は大きく分かれた。しかし、私の判断の拠り所となったものは、ただひとつ、彼らを『救わなければならない』ということであった。この基本原則を守るために、私は行動規範を変えることにした」(『私の仕事』緒方貞子著より)

硬直化してしまった行動規範ではなく、その根拠にあったはずの基本原則に立ち返る。

「今までがそうだから」「みんながそう言うから」ではなく、「何のために取り組んでいるのか。」「自分としてどうなのか。」と自分に問いながら行動する。身長150cmと小柄な緒方貞子さんが「小さな巨人」と評される所以は、困難な国際問題に面しても凜として組織のアイデンティティーを貫くその姿勢にあったのだと思います。



ルワンダの難民の子供達から歓迎される緒方貞子さん

Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

みんな頑張っています! 万緑会の様子

伊藤 喜章 (万緑会教室長)



◀万緑会のある上本町

私が普段教えている万緑会は上本町にあります。

ここは塾のメッカで大小さまざまな塾や幼児教室があります。昨年、上本町教室の教室長を拝命し、1年以上経とうとしています。今回はこの万緑会の教室の様子を皆さんにお伝えしたいと思います。

万緑会は小学受験及び幼児教室専門の教室です。小学受験においてはこの道30年の大ベテラン、山内先生が指導にあたられます。年少から年中まで、少人数制のクラスで、今年は追手門小学校2名、四天王寺小学校1名、四条畷小学校1名など多数の私立小学校に合格者を輩出しました。今現在は、大阪教育大附属天王寺小学校及び平野小学校の合格に向けて年長さんが日々勉強をしています。



▲山内先生

小学校に入るための試験なので、試験問題を見ると、一見簡単そうな問題ですが、「この植物は野菜ですか、果物ですか。」や「植樹祭の季節はいつですか。」、「カモノハシやカンガルーは哺乳類ですか。」など大人が聞かれてもわからないような問題を生徒たちは授業を通じて頭や体を使い、実感的な指導を受けて、解いていきます。まだ3歳〜5歳の子供達ですから、なかなか机の前に座っているだけでも大変なのに、山内先生はいとも簡単に生徒たちの気持ちをつかみ、小学受験に挑む力強い生徒に育て上げます。

このような指導で昨年度は、わずか1ヶ月で日本語もたどたどしい中国人の生徒を同志社国際小学校に合格させました。横で授業を聞いていると、全然やる気のない生徒が帰る頃には夢中になって授業に取り組んでいることが多くあります。何気なく淡々と授業をされるので、簡単に生徒を指導されていると錯覚しますが、山内先生は生徒

一人一人のために、受験する学校の傾向を織り交ぜながら、何時間もかけて授業のプリントを作成し子供達の学力を上げることに余念がありません。



◀山内先生のプリント

また面接練習も学校ごとの傾向にあわせ、「こういう質問がくるので事前に準備ください。」「面接時間は短いので、端的に感情的にならずお子様との具体的なエピソードを込めてお答え下さい。」と親御さんにも熱い指導が入ります。

一方、私の担当している能力開発ですが、授業は読書で始まり、その後音読指導を行っています。



▲名文を読む子供達の声がすばらしい!

昔の著名な作品、たとえば「論語」や「平家物語」をそれぞれが声を出して一緒に読むことで、名文のリズムを体感すると共に、授業に集中する姿勢を培います。ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹教授は幼児期に漢文を素読されており、その重要性を語られていますが、年長の生徒がスラスラと論語や平家物語を読む姿は本当に素晴らしいです。

また、実際の中学入試問題に挑戦することによって、生徒達の新たな視点を養っていきます。「男子三日会わざれば刮目してみよ」ということばがあるように、生徒達は授業を通じて日々成長していきます。千の位の足し算・引き算や時計を使った演習ですぐにはできなかった子供達も1ヶ月2ヶ月もすると理解を深め、できるようになっていきます。

昨日できなかった問題が今日は出来たり、授業でできなかった計算がゲームでできたりと、楽しさの中で算数の概念を学んでいきます。万緑会の授

業を通じて、生徒の成長が見て取れることは私にとっても大きな喜びです。

最後にここ1年を通じて感じたことを1つ。ある体験授業をお子様と一緒に受けたお母様が悩んでおられました。そのお子様にはお兄さん、お姉さんがおり、既に中学受験を終えたり、今現在、受験勉強をしている状況で、近年試験が変わりつつあるということでした。今まで通りの勉強方法や中学受験に特化した塾で勉強していくと子供はどうなるのか不安であるとのことでした。

おっしゃる通り、来年度よりセンター入試が変わり、AIの進歩や外国人労働者の増加により、子供が勉強を進めて大学を卒業し、就職する頃には、労働環境から社会状況までが大きく様変わりしていることでしょう。

単純な作業はすでに機械化されてますし、適正解を導く力も膨大なデータベースを有する機械に負けつつあります。

では、子供達にとって必要なものは何か。どのようなことを学んでいけば今後の世界を渡っていくのか。それは、創造力に他ならないと私は思います。

創造力を使ってどのような目標や夢を持つか。そしてその実現のためには、いかに多様な人々の能力や、AIなど機械の力を組み合わせて活用するかが重要であると思います。

万緑会が国語や算数指導を通じて育てたい力はこの創造力に繋がる「感じる力」「考える力」です。万緑会で扱うのは覚えれば解ける問題ではなく考えなければ解けないものばかり。また時代淘汰に生き抜いた名文を声に出して読むことで、そのリズムや味わいを体感する。難易度の高い算数の問題を図に整理してその組み合わせを考え抜く。このような作業は創造力に必要なインスピレーションを得る力や、それらを得たときに論理的に考え抜く力を育みます。

万緑会にもたくさんの方の入会希望者が来られるようになってきました。万緑会の指導が上本町という教育熱の高い地域で支持を得られるようになっている理由は、これからの時代に適した指導であるからだとは私と考えております。

子供達がこの教室で学び、自分で考え、自分なりの夢を持ち、自分らしい自分になっていく。そんなお手伝いを微力ながらもできればと考えています。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



読書の秋

富田 昌史 (エニグマ)

まだまだ昼間は汗ばむ事もありますが、夜に教室を出る時は寒さを感じ、「もう秋だなあ」と思う日が増えてきました。受験生にとってよいよ大詰めとなる時期となってきます。また受験生がもくもくと勉強する横で、いつもよりちょっぴり長く自習をする後輩達の姿が教室では多くみられるようになってきました。秋は一番成績が伸びる季節ですが、先輩、後輩共に、思う存分それぞれの目標に向かって欲しいと思っています。

また秋といえば、「食欲の秋」、そして「読書の秋」です。しかし昔から「読書の秋」という言葉に、「なぜ秋なんだらう」と疑問に思っていました。私自身は「春こそ読書のベストシーズン!」と思っていたからです。

1 「読書の秋」とは?

由来を辞書で調べると、唐時代の「燈火稍(ようやく)可親(親しむべし)、簡編可巻舒(けんじよすべし)」という漢詩(中国の昔の詩)が出てきました。「火に親しむとはなんぞ?」と初めは思いましたが、「(秋は過ごしやすい季節なので、夜には灯りをもとして読書するのにぴったりだ)」という意味になります。「秋の夜長」という言葉もありますが、秋は夏に比べ夜が長く感じる季節のため、そう思われたのかもしれませんが。

2 「秋は読書に向いている?」

夜が長いという以外に理由はあるのでしょうか。例えば読書や勉強にとっての最適温度は18度から22度だという意見もあります。確かにへとへとになった夏に比べ秋は過ごしやすく、集中して何かをするのによい季節です(もちろん勉強の集中力もあげやすい季節です)。また遠くヨーロッパでも秋は読書の季節と言われ、



作家コンクール等も多くなり、多くの人で街の本屋が賑わいます。もしかしたらノーベル賞の発表が秋である理由も?と妄想しています。

3 読書のススメ

読書は楽しみであると同時に、大きく勉強が伸びるきっかけにもなります。「本を読んで理科や算数の成績があがるの?」と思うかもしれませんが、どの科目も日本語を読むこと、そして想像することは欠かせず、底力となってきます。そしてその二つを同時にできるのが、「読書」です。ただ読書には時間も必要で、日ごろからの接し方も重要になってきます。

[a] 本を読むのが好きな人へ

できるだけ「乱読」をしてみましょう。「乱読」とは図書館などで手当たり次第に本を手に取り、とりあえず読んでみることです。この「乱読」は今ま

で以上におもしろい本が見つかるという以外に、嫌いだった教科の好きな面が見えるチャンスになります。

[b] 本を読むのが苦手な人

良ければ、自分でお気に入りの本を一冊だけ見つけてみましょう。小説なら表紙の裏にある物語のあらすじを読むだけで十分です。何かストーリーが気になる本を見つけたら、その本を1年でもかけて読んでみてください。

[c] おすすめの作家 「宮本輝」

大阪が舞台になった本は多くありますが、その中でも私は、宮本輝さんの書いた大阪の姿を学生時代に好きになりました。やるべきことは分かっている、でも「何となく」悩んでしまう大阪の子供や青年の姿がよく描かれています。見知った地名も出てくる中で、ちょっぴり視点の違う大阪の姿を想像してほしいと思っています。



◀イタリアの本屋

